

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
創刊号		



## 「北上市立鬼の館」の誕生

館長 門屋光昭

待望の「鬼の館」が完成しました。わくわくするような、ちょびり怖いのがぞいてみたくなるような、そんな「鬼の博物館」に仕上がりました。

「鬼」は、古くから怖いもの、人に災いをなすもの、人にとって食うものとされています。また、古代の中央政府は東北に住む人々を「蝦夷えみし」あるいは「鬼」と蔑称し、征討の対象としてきました。しかし、北東北では「鬼」は、鬼剣舞の鬼、秋田や山形・岩手の沿岸部などのナマハゲ・アマハゲ・ナモミ・スネカなど、悪魔を払い、人々に幸せをもたらすもので、「カミ」と同列のものでした。折口信夫はこれを「春来る鬼」と呼んでいます。

奥三河（愛知県）の花祭りの「榊鬼」、新野（長野県）の雪祭りの「天狗」、安芸・周防（広島・山口県）の神楽の「荒平（柴鬼神）」、国東（大分県）の修正鬼会の「鬼さま」など、同一線上に並べることができる「鬼」は全国各地に健在で、今も民俗芸能や民間信仰に世界で大活躍をしてい

ます。

北上市は、市民憲章に「あの高嶺 鬼すむ誇り／その瀬音 久遠の賛歌／この大地 燃えたついのち／こは 北上」とうたっています。いっぼう変わってはいますが、哲学的理念的であり、こうした憲章を選んだ当局の高い見識に、私は目を見張ったものです。では、「鬼すむ」ことがなぜ誇りとなるのでしょうか。誇り得る「鬼」などあるのでしょうか。こうした疑問は、北上の「鬼」を、高嶺に棲み、私たちに幸せをもたらしてくれる遠祖と位置づけることで氷解できます。

怖い鬼から愛すべき鬼まで、様々な鬼の姿を紹介しながら、インドや中国・朝鮮から渡来した「鬼」、日本古来からの「鬼」、あるいはそれらが習合して誕生した「鬼オニおに」を整理し、「鬼とは何か」を考えていき、そうした鬼情報を北上から日本全国へ、北上から世界へ発信することが「北上市立鬼の館」の役割だと考えています。

# 一步踏みだした鬼の館

## 1. 建設までの歩み

平成3年4月1日、北上市・和賀町・江釣子村の3市町村が対等合併し、新北上市が誕生しましたが、合併前の昭和63年、旧和賀町において、第4次和賀町総合開発計画の重点プロジェクトとして「鬼と平和の町づくり事業」が策定されました。

この事業は、和賀町が、岩手の代表的な民俗芸能「鬼剣舞」の発祥の地であり、鬼剣舞の鬼は、仏法に帰依し、仏の化身といわれ、天下泰平、五穀豊穰、悪魔退散と万民の幸せを願っている善鬼としてまちの誇りであり象徴ととらえられていること、町を東西に横断する国道107号が、かつて和賀と秋田県平鹿郡を結ぶ主要路線であり、その頭文字の、「平」と「和」をあわせて平和街道の愛称で親しまれ、町の動脈として町勢の発展を担っていることなどの背景をふまえ、鬼のもつユニークさやおもしろさをかした町の活性化を目指し、地域の文化の見直しと、平和で幸福な町づくりを推し進めようとするものでした。

その後、ふるさと創生事業を取り入れ町民から広くアイデアを募集したところ196点の応募があり、審査員も町民から募集して町職員2名を含む9人で審査を行いました。

その結果、「鬼の館」をシンボル施設としてプランの中核にすえた案が採用され、「鬼と平和の里づくり事業」と名づけられました。計画の具体化のた



め、「鬼と平和の里づくり推進委員会」が発足、県内外から15名の委員を委嘱し、委員長を盛岡大学学長である高橋富雄氏にお願いして進めてきました。

「鬼の館」は、平成4年12月19日着工、立案から7年、総事業費10億円を投じてこの6月1日に鬼のテーマ博物館としてスタートしました。

## 2. よろこびの落成式・祝賀会

### オープニングセレモニー

平成6年4月1日に、それまでの担当課であった和賀支所振興課から北上市教育委員会所管の教育機関として、館長(非常勤)・主幹兼館長補佐・主査・学芸員・専任研究員(非常勤)各1名が配置され、6月1日の開館にむけて本格的な準備が始まり、5月19日には、報道関係者を対象とした「プレス公開」を行いました。

5月24日、岩崎鬼剣舞の剣舞作法による厳粛な



▲社寺の新築や落慶法要に行われる儀礼「屋固め」が行われました。

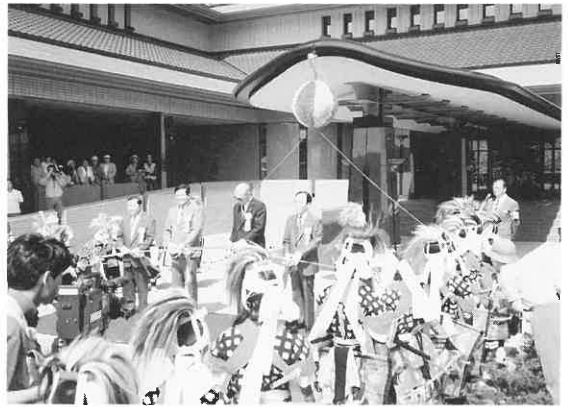
鬼と平和の里づくり4本柱

- 「鬼の館」の建設 シンボル施設  
全国各地の鬼の面世界各国の仮面を展示・又様々の鬼の資料・情報を収集し映像音響を使いながら紹介する鬼と平和の里づくりの拠点施設
- 鬼のモニュメントの設置 鬼の里の環境整備  
鬼の里にふさわしい鬼を素材としたシンボルタワーや鬼剣舞小公園、造園修景、鬼の街灯設置等の環境整備
- 鬼まつりの開催 文化活動の振興  
鬼を手掛かりに郷土の歴史と文化の見直しや継承発展、鬼や面にからめた祭りの開催、全国各地に呼び掛けて鬼に関するシンポジウム、世界の仮面劇、鬼学講座、鬼と関係するまちとの交流
- 鬼グッズの開発 特産品の開発  
鬼の里にちなんだ特産品づくり、鬼をデザイン化した装飾品、日用品、遊具、鬼にちなんだ物産を集めての鬼の物産展の開催、当面町の特産品にオニシールを貼りイメージアップ



▲鬼と平和の里づくり推進委員等への感謝状贈呈が行われました。〈落成式〉

「屋固め式」に続いて落成式を挙行、式典では、教育委員長の「鬼の魂に潜む純粋さ・力強さ・心の温もりを肝に命じ、文化の香り高いまちづくりをすすめるよう努めたい」と式辞があり、次いで北上市長より「市民憲章にうたっている鬼すむ誇りをもって立派に運営していきたい」との挨拶がありました。続いて教育長の経過報告、感謝状の贈呈、祝辞があり盛会のうちに式典を終えました。その後、関係者170名が3グループに分かれて館内を見学、館長な



▲6月1日一般公開前にテープカットが行われました。〈玄関前〉

どの解説に耳を傾けました。同日午後からは、市内鬼柳の翠明荘にて祝賀会が催されました。

6月1日は、北上市助役・教育長・館長・岩崎鬼剣舞保存会長・岩崎小学校生徒代表の5人がテープカットを行い、一般公開が始まりました。

当日は、岩崎保育園児や岩崎小学校の生徒による鬼剣舞のアトラクションを行いました。



▲落成式式典の後、式典出席者が館内を見学しました。〈展示室・世界の鬼〉



▲落成式終了後、会場を移して落成祝賀会が盛大に行われました。〈祝賀会〉

## 入館者5万人目は木村さん



北上市立鬼の館は、開館96日目にあたる9月21日、5万人目の入館者をお迎えすることができました。

5万人目となられた方は、下閉伊郡山田町豊間根の木村慶子さんでした。木村さんは初めての来館、勤め先の一泊旅行で横手市を訪れたあと、当館に立ち寄られたとのことでした。

木村さんには、当館の平賀主幹より記念品の和紙面「アテルイ」が手渡され、たいへん喜ばれました。

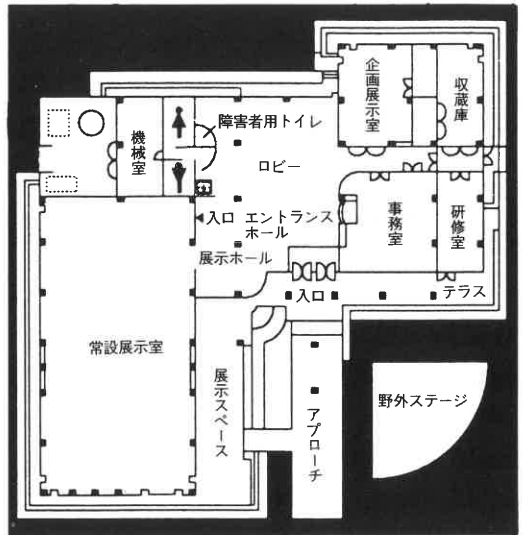
◀大きな鬼剣舞面の前で記念品贈呈が行われました。

### 3. 施設の概要

北上市立鬼の館は、19,000㎡の敷地に庭園を配し、白を基調とした蔵づくり風の建物で、その延べ床面積は、1,789㎡です。

館内は、6つの展示テーマを持つ「常設展示室」(648㎡)、年間2～3回、テーマと期間を設けて展示を行う「企画展示室」(108㎡)の2つの展示室、資料を保存するための収蔵庫(90㎡)、講座や会議などに用いる「研修室」(72㎡)、一部に展示も行えるホールや広いロビーがあります。

また、野外には民俗芸能や各種の催し物に使用できるステージも備えています。

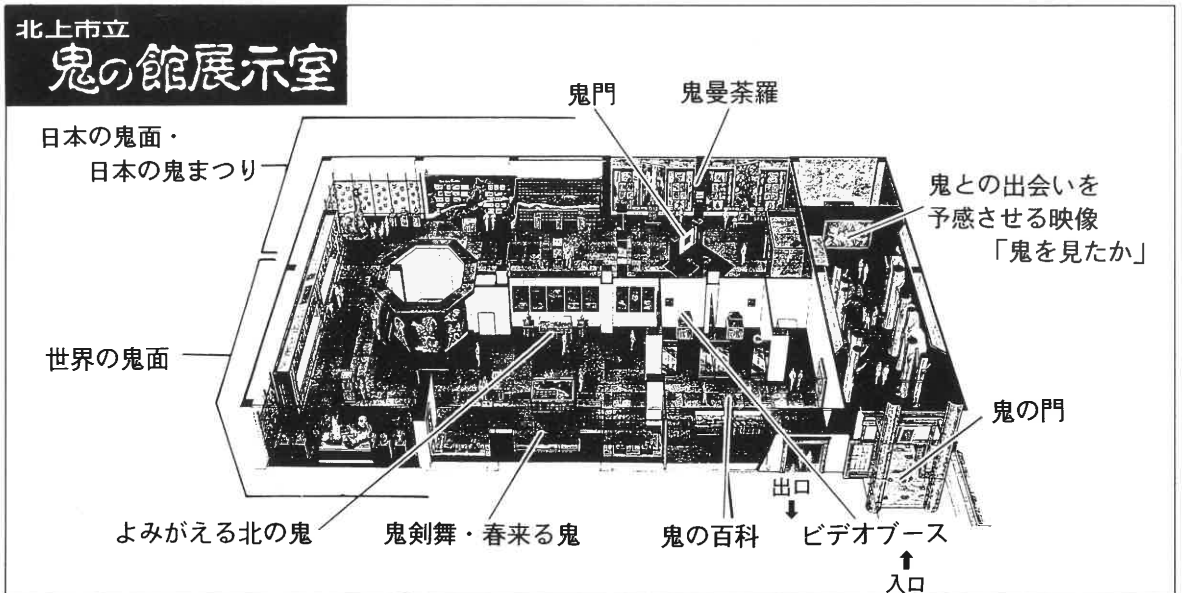


〔平面図〕

常設展示は、津軽の鬼っこ（青森県弘前市）が守る「鬼の門」をくぐり、鬼との出合いを予感させる映像「鬼を見たか」を視聴する映像室へ入室することからはじまります。視聴後、当館独自の鬼区分である鬼曼荼羅による「鬼の原像をさぐる」、日本のまつり・芸能に鬼の諸相を見る「日本の鬼面」、海外の鬼・悪魔を扱った「世界の鬼面」、古代の東北地方の蝦夷や民俗神・なまはげ、鬼民話、鬼剣舞を中心とした念仏剣舞などを扱った「よみがえる北の鬼」、最後に、ビデオブースと鬼の百科があり、文字解説を控え、資料の大部分がむき出しの露出展示の方法をとり、視覚と感性に訴える展示となっているのが特徴です。



▲常設展示室を出てすぐの展示ホールは、鬼を扱った全国の郷土玩具を展示しています



#### 4. 鬼の館を見学して ～来館者の声～

当館は、社会教育施設であることから、市内の小中学校の学習を目的とした入館には入館料免除の規定があり、オープン間もなくから社会科学学習の申込みがありました。

ところが、「鬼」は人の心が作り出したものであり、実体をつかむのが難しいテーマだけに社会科学学習への対応が十分に準備されているとは言い難い状況でした。そんな中で考え出されたのが、「見学シート」です。

現在、小学生の社会科見学については、幼児～低学年向けの「鬼めぐり」と低・中学年向けの「鬼をつくろう」高学年向けの「鬼の原像をさぐろう」という3種類のシートを使っています。「鬼めぐり」は展示室内にある様々な鬼に関する資料を探してチェックする方式のもので個人でも使用でき、高学年のシートは、学芸員が鬼の原像をさぐるの展示コーナーで具体的な例をあげながらお話しをするためのもので、個々にクイズがつく構成になっています。

各学校からは、見学後つぎのような感想文が寄せられています。

バスえんそくのとき、いちばんさいごにおにのやかたにいくばんになって、おにのやかたについたらすごくどきどきしました。中にはいったらおねえさんがでてきて、おにのことおしえてくれたよね。こんどは、おとうさんやおかあさんといっしょにいくからね。おねえちゃんにきかせたらおねえちゃんが「いきたいな。」っていってました。おにさがしのときとってもおもしろかったです。こんどはかぞくで、いくかもしれません。とってもたのしかったです。

市立立花小学校2年 こん ひろみさん  
～生活科「お手紙を書いて出そう」の取り組み～

鬼の館のみなさん、いろいろなしかけや、お面をみせてくれて、ありがとうございます。(中略)つぎに、えいぞうを見て、鬼を見たかがおもしろかったです。となりの部屋に入っていくと、鬼の話を聞いていろいろなことが分かりました。周りを歩いてみると、顔が変化するお面がおもしろかったです。

(中略) こんかいは、時間があまりなくて、ゆっくり調べたり見たりできなかったけど、こんど行くときは、時間をたっぷり使って、楽しみたいと思います。ほんとうにありがとうございました。

市立南小学校6年 柴田 太郎君

ぼくは、まえにも鬼の館に行ったことがあるけど、あまりわかりませんでした。そしてこんどは社会科見学で見に行ったら、問題を書いている紙がわたされて、鬼に出会ってしまったらどうするかと書いていました。そして、大きなビデオとかを見たりして、楽しみながら、さがせました。(中略)そして鬼のことがかいているのがあって、読んでみたら、知らないことがいっぱいわかってきたので、問題の答えがわかってきてうれしかったです。(後略)

市立南小学校6年 千田 充幸君

(前略) 中で見学して、私が一番興味を持ったのは、地獄の鬼の絵と、最初の「鬼を見たか」です。

「鬼を見たか」は、今にも鬼が出てきそうな木のある周りのふんいきがおもしろかったです。今はおもしろかったと言えるけど、見ていた時は、少しこわかったし、どきどきしました。(中略)

鬼の館を見学して分かった事は、「泣いた赤鬼」のような、悪くない鬼もいた事です。それに、ここは、鬼の事を楽しく学べる所だという事も分かりました。

今回は、学校での社会科見学だったけど、いつかまた家族や友達と来たいと思います。

市立南小学校6年 野崎 貴美さん

このほかにも、首都圏の高校生による地域学習や公民館活動、PTA、子供会などでの団体利用のほか、グループでの小講演で研修室利用者もありました。

北上市立鬼の館では、これからも、みなさんの積極的な学習を応援します。

## 鬼学ノート

## 鬼の原像を求めて

菊池和俊

## 1. はじめに

日本における地獄（鬼）の姿を決定づけたのは、平安時代中期の天台宗の高僧・恵心僧都源信えしんそうづげんしんにより選述せんじゆつされた『往生要集』といわれています。

『往生要集』は、汚れた六道りくどろ（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天）の世界を正面から描いていて、中でも地獄の様相の描写は精緻を極めています。

人間は生前の行いに従い六道のいずれかに転生すると教えていますが、この教義をわかりやすく説明するため書かれるようになった絵が、「地獄変」や「地獄草紙」と呼ばれるものです。

これに登場する「鬼」は、「裸体に虎の皮の褌をつけ、肌の色は赤や青、黒などで頭には角がはえ、口が耳まで裂け、鋭い牙と爪を持つ」という、統一されたキャラクターで描かれており、絵の説明を職業とする絵解えとぎや絵解比丘尼びくくになどにより広く民衆に流布りゅうぷされて、日本における鬼の姿が決定的なものになって行きました。

## 2. 鬼の姿

易学者・新井白蛾は鬼の姿について、「丑寅の間を鬼門と号し、（中略）是を表して牛の頭をかたどり、腰より以下虎にかたどる。」と「牛馬問」に著しています。

これは、鬼が、鬼門の方角である艮（うしとら）から現れるため牛の角を付け、虎の褌みんどしを纏まとっている姿になったという、ごろあわせで姿形の説明をしています。このような理由で鬼が、統一された姿に描かれるようになったとは考えづらいところがあります。

『往生要集』が鬼の姿を決定するのに大きな影響を与えているのは確かなことですが、むしろ『往生要集』が書かれた頃に鬼の姿としてふさわしいとされるものをもとにして鬼の姿が出来ていったと考え

るほうが自然です。

そして、その鬼の姿の原像というべきものがヒンドゥー教の三大神の一神であるシヴァ神であり、それをモデルとして作られた明王の姿であると考えられます。

## 3. シヴァ神と明王

シヴァ神は、ヒンドゥー教では、世界の創造の神である一方、世界の終焉しゅうえんに破壊神ヴァイラヴァとして現れ、第三眼からでる炎で天・空・地を焼きつくし、神々を含むすべてのものを滅ぼす凄まじい力を持つ破壊神といわれています。その成り立ちは、ルドラという暴風雨の神に「獣の主（豊穰の神）」などの様々な土着の神が習合したもので、長寿・医療・戦争など現世の利益と深く結び付いています。信者には聖魔を問わず公平に助けを与え、時として幽鬼と精霊を伴い、ちぢれ毛で衣裳を纏わず、ドクロや人骨を身につけて墓地に出没するため魔族の頭領という別名もあります。

シヴァ神は、チベット密教の中では「マハーカーラ」と呼ばれ、仏に屈した以後は、仏敵を調伏する護法神となったとされています。マハーカーラの姿はシヴァ神の忿怒相であるヴァイラヴァがもともなったもので、ヴァイラヴァと同様に青黒い肌に多面多臂たへんたへき、首にはドクロの首かざり、頭上には五個のドクロをかざす魔神の姿で表されます。

そして「マハーカーラ」をモデルに誕生したのが密教特有の尊格である明王と考えられます。

明王は、多面多臂、裸体に獣の皮や蛇・頭蓋骨を身に付けた姿で描かれており、マハーカーラを媒体としてシヴァ神の姿形を受け継いでいるばかりでなく、様々な面でシヴァ神と密接な関係があります。

それを幾つか上げてみますと、まず、不動明王のサンスクリット名は、「アチャラ・ナータ」といい「動かない者の守護神」の意味です。これはシヴァ神の別名であり、また、不動明王の脇侍せいたかの制吒迦童子せいたかと矜羯羅童子こんがらは、シヴァ神の召使のチェータカとキムカラを表します。

降三世（ごうさんぜ）明王に踏まれる大自在天とはシヴァ神を表し、明王の姿形の特徴である多面多臂たへんたへきや第三眼こひくん、虎皮褌さんさげき、三叉戟もまたシヴァ神の特徴

です。

このように明王とシヴァ神は、深いつながりがあるわけですが、それはとりもなおさず仏教とヒンドゥー教との関係にほかなりません。

インドに誕生した仏教は、隆盛を誇っていたヒンドゥー教との対峙<sup>たいじ</sup>を少なくし人心の支持を得る等の目的で、巧みにヒンドゥーの神々を護法神として取り入れていったと考えられます。中でも最も強大な力を持つシヴァ神が守護神となることは、仏徒にとってもこれほど心強いことはなく、どんな敵をも粉碎するようなイメージではなかったでしょうか。また、世に広く知られた偉大な神が従う仏教とは、尊い教えであるというようなPR効果も絶大で、マハーカーラをシヴァ神から創造する意味合いがここにあったと考えます。

しかし、あくまでヒンドゥー教の神々は異端の神で、いわば外様大名ですから、いつでも離反する危険性を含んでいる存在です。

そこで、これら護法神以上の力を持つもの、すなわち將軍を据えて全体を束ね、仏教の威光を示さなければならぬことから護法神以上の力を持った存在が必要となり、教化し難いものを力によって屈服させる忿怒の仏である明王という尊格が作られました。

護法神は、仏教による仏教のための尊格ですから、本来のヒンドゥーの神々が、仏教を滅ぼすべき異端としていることは周知のことです。

それゆえ、仏教としても最大の敵として想定しているのはヒンドゥー教の神々で、その象徴こそシヴァ神であったのです。

これをよく表しているのが、五大明王の一つである降三世明王<sup>こうさんぜ</sup>が自在天<sup>だいじざいてん</sup>を踏む姿です。降三世明王は、ヒンドゥー教では「シュムバ、ニシュムバ」という兄弟の阿修羅であるとされ、シヴァ神の妃ウマーに滅ぼされますが、仏教では逆に自在天（シヴァ神）と烏摩妃（ウマー）を踏みつけ調伏する姿で表されます。これは毘沙門天が邪鬼を踏むように、あきらかに自在天と烏摩妃を邪鬼の類とみなしているといえます。

すなわち、シヴァ神の姿こそ鬼の姿です。そして明王の姿形はシヴァ神を抑える目的ゆえに、シヴァ

神をモデルとしてシヴァ神に勝る忿怒の表情を作為的に作りだす必要があったと考えられるのです。

つまり、明王の力を示すためには、一般に広く知られた最強の魔神シヴァというモデルを利用するのが有効な手段であったわけです。

そして、鬼の姿をまねた明王もまた仏でありながら、鬼を凌ぐ<sup>しの</sup>魔神の姿であるといえるのです。

#### 4. 終わりに

最後に鬼の特徴とシヴァ神とのつながりについてです。鬼は牛の角を頭上につけていますが、牛はシヴァ神の象徴でもあります。

ご存知のとおり、牛はヒンドゥー教においては神聖な動物で特にシヴァ神は、獣の主（頭上に角を頂く）という側面を持ち、白牛ナンディンを乗り物にしています。

菅原道真は、別名を天満大自在天といい、白牛に乗る姿で表されるとおり、シヴァ神とイメージがダブルします。道真は、世に知られた恐ろしい崇り神で日本における鬼神の代表格です。このことから、鬼とシヴァ神と牛との浅からぬ因縁を知ることができます。

そして鬼の持っているもう1つの大きな特徴である虎の禪もまた、シヴァ神の虎の皮を身につけるという特徴と重なります。

鬼を払う四つ眼<sup>ほうそうし</sup>の方相氏は、鬼は自分より多い眼を持つものを恐れるため四つ眼であるといわれています。シヴァ神は、三眼で、しかも第三眼が火焰を放出する強力な武器であったり、真理を見抜く心眼であったりするように、重要な役割を持っています。すなわち、四眼を持つ方相氏は三眼のシヴァ神を越える力でこれを払う力を秘めていると考えられたもののように思えます。

このように、シヴァ神～マハーカーラ～明王・自在天そして鬼との関係を探ってみると鬼は、ヒンドゥー教～チベット密教～日本密教の大きな流れの中で、シヴァ神～マハーカーラ～明王・自在天～鬼と推移しながらシヴァ神の特徴である裸体に虎皮の禪、牛角などを受け継ぎその姿形を整えていったもののように考えられます。

（きくちかずとし・北上市立鬼の館主査）

## 事業報告

5/9	記者会見	南部流更木鹿踊、道地ひな子	岩崎鬼剣舞
5/19	プレス公開	剣舞、立花八土踊、岩崎鬼剣舞	鬼学講座2日目
5/26	仮設案内板取付	北上みちのく芸能まつり鬼の	「鬼のルーツと死者の書」
5/23~6/5	開館告知CM放送	館公演	講師 当館主査
5/24	落成式典	荒屋田植踊、金津流鶴羽衣鹿踊、	菊池 和俊
6/1	開館記念テープカット	犬吠森念仏剣舞、北藤根鬼剣舞	受講者 30人
6/12	開館記念北上市大乗神楽大会	岩崎鬼剣舞親善交流発表会	10/1 鬼の館前バス停留所設置
	(共催事業)	(共催事業)	10/10 鬼学講座3日目
	和賀大乗神楽、浅部法印神楽、	札幌民舞サークル「結」、	「邪鬼めぐり」
	雄勝法印神楽、他	わらび座、大阪高槻民舞の会、	講師
7/22	鬼の館瓦版発行	佐渡の國「鼓童」、岩崎鬼剣舞	岩手県立博物館学芸第一課長
7/24	第1回鬼の館鬼剣舞公演	第1回企画展	大矢 邦宣氏
	相去鬼剣舞	「仮面における鬼・悪魔」	受講者 26人
7/28	夏休み鬼の館探検	鬼学講座開講	10/11 資料調査(鹿児島県下飢島)
	参加小学生21人、大人16人	「鬼学事始」	10/23 第4回鬼の館鬼剣舞公演
7/31	第2回鬼の館鬼剣舞公演	講師	岩崎鬼剣舞
	滑田鬼剣舞	岩手医科大学教授	鬼学講座4日目
8/7	北上みちのく芸能まつり鬼の	力丸 光雄氏	「民話大工と鬼六をめぐる」
	館公演	受講者32人	講師 当館専任研究員
		9/10 鬼の館瓦版発行	千葉 淳子
		9/18 第3回鬼の館鬼剣舞公演	受講者 22人

## 入館状況

6月1日開館以来5ヶ月が経過し、市内をはじめ、北は北海道から南は沖縄県まで県内外から5万人をこえる入館者がありました。

H 6 . 6 . 1 ~ H 6 . 1 0 . 3 1 開館日数128日 単位：人

	小中学生	高校生	一般	計
個人	5,730	612	37,665	44,007
団体	487	78	12,278	12,843
無料	444	30	3,951	4,425
計	6,661	720	53,894	61,275

## 利用案内

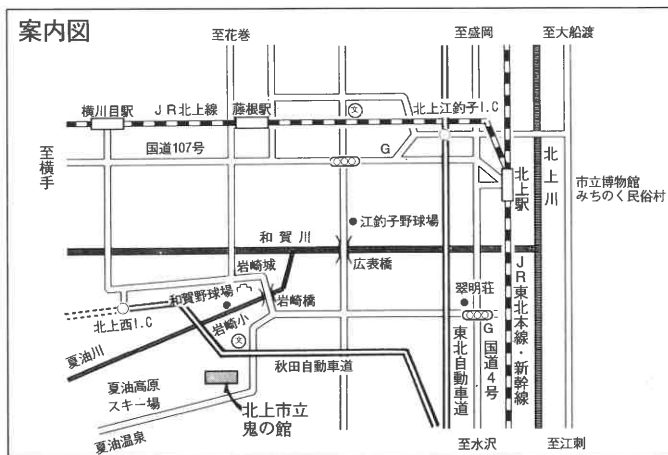
**開館時間** 午前9時から午後5時まで。  
なお、入館は午後4時30分まで。

**休館日** 毎週月曜日、国民の祝日の翌日、  
年末年始(12月28日~1月4日)、  
館内整理日(11月27日~30日)。

**入館料** 一般 300円(250円)  
高校生 200円(150円)  
小中学生 150円(100円)  
( )内は20人以上の団体料金。

なお、市内の学校が行事で利用する場合、毎月第2土曜日に利用する市内の小中学生は入館料免除。

**交通案内** ・JR北上駅よりバスで25分。  
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月~10月)「鬼の館前」下車。  
・JR北上駅より車で20分。  
東北自動車道北上江釣子I.C、秋田自動車道北上西I.Cからともに車で15分。



## 北上市立鬼の館だより

創刊号 1994.11.20

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-03 北上市和賀町岩崎16地割131番地  
TEL・FAX 0197(73)8488